

探究学習マイプロジェクトを通じた 地域共創型授業の取り組み

佐野 淳也

神山まるごと高等専門学校 デザイン・エンジニアリング学科

1. 神山まるごと高専とネイバーフッド概論

神山まるごと高専は、テクノロジーとデザイン、そして起業家精神を一体として学び、「モノをつくる力で、コトを起こす」人材の養成を目指し、2023年4月に徳島県神山町に開校した私立の高等専門学校である。

筆者が1年生向けに担当する「ネイバーフッド概論A」は、5年間のアントレプレナーシップ科目群の初年次導入科目であり、社会共生や地域共創をテーマに学ぶ通年必修科目である。具体的には、「隣人」という言葉の定義やその概念を知り、世界の多様性と格差について学び、そうした多様な他者とともに生きていく上での共生の思想や実践について学んでいく内容となっている。

高専は中等教育である一般の高校とは違い、大学と同じ高等教育に位置づけられることから、90分×15回の授業が前期と後期にそれぞれ展開しているが、ネイバーフッド概論は通年科目であることから年間30回の授業が置かれている。

2. 探究学習マイプロジェクト

マイプロジェクト（以下、マイプロ）は、身の回りの課題や関心をテーマにプロジェクトを立ち上げ、実行することを通して学ぶ、探究型学習プログラムである。小さくても実際に起こす「アクション」と、プロジェクトに対する「主体性」が大事にされており、正解のない問題に向き合い探究することで、未来への創造力が育まれることを狙いにしている。

この手法は2006年頃、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで、当日ソーシャルアントレプレナーシップを専門にしていた井上英之研究室の実践の中で生まれ、その後全国に広がった。現在、マ

イプロジェクトは、企業研修、大学におけるPBL、中高生のキャリア教育など、様々な文脈・目的において活用されており、なかでもNPO法人カタリバによる全国高校生マイプロジェクトアワードは特に有名である。

3. ネイバーフッド概論でのマイプロジェクト

ネイバーフッド概論では、開講初年度よりこのマイプロジェクト手法を教科コアとなる探究学習として位置づけ、受講生全員で取り組んでいる。

神山まるごと高専では、入学前課題として将来に向けたマイミッションを入学者全員で作成し、入学式でその内容を「初志」として発表している。その初志の実現に向けて、まず始めたい最初の一步として本教科ではマイプロを位置づけている。

自分独自の問いに基づいたマイプロシートを作成し、具体的なアクションを通して実施していくプロセスを通して「なんのために生まれて、なにをして生きるのか」という自己への問いを探究するとともに、いちばん身近な隣人である学校コミュニティ（学生及び教職員）と、地元の神山町へのつながりを深め、「共同体感覚」を養っていくことを大きな目的にしている。

マイプロは年間通じて実施し、後期授業の最終段階（1月）にて成果発表を行う設計にしているが、前期末の授業内でも中間成果発表を7月に行っている。後期授業が10月に開始されるまでの間、約1.5ヶ月の夏休み期間があり、学生たちはそれぞれの地元に戻っているが、その間は任意で学生たちはマイプロに取り組むこととしている。

マイプロは個人単位とグループ単位（4名以内）のどちらでも取り組むことも自由とし、途中でグループメンバーが代わったり、個人で取り組んでい

た課題をグループで取り組むなど、実施する中でテーマも含めて自由に変更も可能としている。

マイプロの進め方としては、4月の授業開始段階にてマイプロの概要と目的、年間スケジュールや評価方法などを受講生に解説を行い、マイプロ内容を各人が書き込み計画することのできるマイプロシートを電子配布している。このマイプロシートは「マイプロ(マイプロジェクト)研究会」(<https://my-pro.me/>)がウェブ上で無料配布しているものをベースとし、授業独自の内容も加えてアレンジした内容としている。

前期/後期とも、マイプロ課題は以下手順で進める設計としている。

① マイプロ計画シート作成 (5月/10月)

個人単位で最初のマイプロを計画し、授業内でシェアした上で、共に取り組むグループを作成。個人で取り組む場合も、共に応援し合える「マイプロボディ」を作成。

② マイプロ中間発表 (6月/11月)

マイプロ開始後にその内容や進捗を互いにシェアし合うグループワークを授業内で実施。より高い視点で気づきやアドバイスを提供するメンターも参加する。

③ マイプロ成果発表会 (7月/1月)

マイプロの成果やそこからの学びや成長について、全員がプレゼンする成果発表会を前期末/後期末に実施。後期末の発表会では地域の方にも参加いただいている。

4. マイプロジェクトの評価方法

ネイバーフッド概論は、「隣人とも共に生きる力」という非認知能力を養う科目であることから、試験による成績評価は行わず、毎回の授業リフレクションや課題レポートなど合わせた総合評価としている。その中、マイプロは前期・後期それぞれの期末課題と位置づけ、それは年間の成績総合評価において30%と大きな割合を占めている。

前期末/後期末の成果発表の内容を以下の6項目に基づく独自ルーブリックで評価しており、さらに学生の相互評価も取り入れている。

【マイプロ評価基準】

- ① **内発的動機**：内側から溢れるワクワク感に基づき「のびやかに自分になる」内容か
- ② **ネイバーフッド力**：「多様な他者と共に生き、共に未来を創る」力を養う内容か
- ③ **モノ・コト力**：「モノをつくる力で、コトを起こす」力を養う内容か
- ④ **β mentality**：失敗を恐れずに挑戦し、レジリエンスを高めるプロジェクト内容か
- ⑤ **笑顔の連鎖**：自分を起点とした隣人との関わりの中で笑顔の連鎖を起こす内容か
- ⑥ **ユウダイモニア**：人生の意義や生きがいについて探求し、気づきが生み出される内容か

5. 全体まとめと今後の展望

ネイバーフッド概論では毎年度、受講生からの授業評価を独自のアンケートフォームを用いて実施している。この中で、「探究学習マイプロジェクトに取り組み、発表を行ったことは、自分自身の成長やなりたい自分に近づいていくことに役立ちましたか?」という設問項目を設けているが、これに対し「強くそう思う」「そう思う」を合わせた回答が、2023年度においては85%、24年度においては87%であった。25年度は現時点ではまだ年間を通したアンケートは実施していないが、前期末時点でのアンケートでは98%と高い割合を示している(強くそう思う62%/そう思う36%)。

その理由を記した自由記述においては、「自分の動機を見つめることで新しい価値観を発見し、行動に移せている」「他者との関わりが増え、挑戦する環境が整ったことが成長に寄与した」「他者からのフィードバックが自己理解を深めるきっかけとなった」といった回答が多く見られた。

学習者の主体性/能動性を重視し、内発的動機とそこから生まれるアクションに基づいた「内部駆動型の学び」は、学習者の満足度とともに、個別最適化した一人ひとりの成長を推進することを示されるひとつの事例だと考えられ、今後も実践と考察を続けたい。